

平成30年度

第24期 広島精神分析セミナー ご案内

- 期 日：平成30年4月22日より
- 会 場：広島市精神保健福祉センター
- 主 催：広島精療精神医学研究会

皆様方におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

本セミナーは、この度、3年コースとして一新致しました。年10回のセミナーを開催致しまして、1回のセミナーは4時間40分となりました。年10回のセミナーのうち8回以上のご出席によって、修了証を取得できます。また、3年分の修了によって認定証が発行されます。

最近の臨床活動においては、かつての入院治療を中心とした診療から徐々に外来診療の比重が高くなり、治療対象となる患者群が大きく変化しています。パーソナリティ障害の治療、デイケアなどの地域医療におけるグループ指導、病棟運営のグループアプローチの問題など、細かいダイナミクスを理解していく必要が多くなっていると言われており、これは時代の変化に伴う社会環境の大きな変化も関係していると考えられます。

広島精神分析セミナーは、そのような背景の中で、広島地区において力動的な精神医学や精神分析における最新の情報を提供することを目標にして、1994年の創設以来運営して参りました。これは日本精神分析協会の指導の下に認定された基礎セミナーとして、東京精神分析セミナー、福岡精神分析セミナーと共通したカリキュラム、講師によって組織されています。なお、対象は医師に限定しております。精神科医師、心療内科医師、小児科医師などの方々のご参加を、強く期待しております。

このコースは3年コースで 次のような特徴があります

- 1) 日本精神分析協会(国際精神分析学会)の教育セミナーの基礎コースとして認定されています。本格的な精神分析や精神分析的な精神療法を目指す方は、この基礎コースを履修した後に、日本精神分析協会研修コースに応募することが可能です。
- 2) 日本精神分析学会における認定精神療法医(精神分析的な精神療法医)の必須指定コースの一つとして認定されています。
- 3) 精神科医師、心療内科医師などとしての力動的な精神医学についての一般教養として、現代の最先端の情報を得ることができます。規定の3年のカリキュラムを履修された後も、続けてセミナーに参加されることによって常に進歩している最新の情報を得ることが可能です。
- 4) 講義の主題は3年ごとに循環させていく方式ですので、いつ参加を開始されても3年間続ければ全科目を履修することができます。
- 5) 本セミナーは日本精神神経学会精神科専門医制度の単位対象研修会の指定を受けています。取得単位はB群で、通年参加されると4点の単位が取得できます。

●会場：広島市精神保健福祉センター3F大会議場



広島市中区富士見町11-27 Tel.082-245-7731
会場には駐車場がございませんので、予めご了承下さい

申し込みについて

- 参加資格：臨床に携わる医師
 - 参加料 (全10回分/1回4時間40分)
11万円 (卒後4年目以上の方)
4万円 (卒後4年未満、または主たる身分が大学院生の方)
 - 支払方法：銀行振込
広島信用金庫(本店) 普通 0799788
広島精神分析セミナー 事務局 衣笠 隆幸
- 参加ご希望の方は申し込み用紙をご記入の上、郵送かFaxで下記の事務局までお送りください。
同時に参加料を上記口座にお振込み下さい。
- 申込締切日：平成30年4月21日

- 主 催：広島精療精神医学研究会
- 代 表：衣笠 隆幸 (日本精神分析協会前会長)
- 実行委員長：浅田 護 (浅田病院院長)
- 実行委員：皆川 英明 (広島市精神保健福祉センター所長)
寺本 勝哉 (ほうゆう病院)
池田 正国 (己斐ヶ丘病院)
中村 浩平 (広島市精神保健福祉センター)
中甫木くみ子 (広島市精神保健福祉センター)

事務局



広島市精神保健福祉センター
〒730-0043 広島市中区富士見町11-27
Tel.082-245-7746 Fax.082-245-9674

広島精神分析医療クリニック
〒730-0037 広島市中区中町1-3 ダイヤ並木ビル6F
Tel.082-545-1070 Fax.082-545-1071

■共 催

広島大学大学院医歯薬学総合研究科
先進医療開発科学講座 精神神経医科学
(広島大学医学部神経精神医学教室)
広島市精神保健福祉センター

第24期広島精神分析セミナー予定表

■ 日曜日 10:00～15:40
(お昼休憩 12:20～13:20)

■ 場所：広島市精神保健福祉センター

日程	講師	テーマ	内容	参考文献
平成30年(2018) 4月22日(日)	小川 豊昭 名古屋大学 総合保健体育科学センター 教授	<ul style="list-style-type: none"> 10:00～12:20 講義『ポジション論』 13:20～14:40 講義『転移の力動』 14:40～15:40 症例検討 	ポジション論は、クラインの考えの最も基盤となるものです。もう一度クラインの著作に戻ってその精髓を捉え直したいと考えています。PSポジションとDポジションは、Here and Nowの瞬間瞬間に現れ変化します。これがそのまま転移の理解につながります。 症例検討では、演者自身のケースを提示して、皆さんにも討論していただこうと考えています。	メラニー・クライン著作集 第4巻 妄想的・分裂の世界 / 監修 小此木啓吾 ハンナ・シーガル著「メラニー・クライン入門」岩崎訳、岩崎学術出版社
5月20日(日)	飛谷 渉 大阪教育大学保健センター 准教授	<ul style="list-style-type: none"> 10:00～12:20 講義『思春期の病理』 13:20～14:40 講義『思春期の転移と逆転移の特徴』 14:40～15:40 症例検討 	コミュニケーション・テクノロジーの発達や社会システムの変化、そして何よりも家族や育児様式の激変により、若者のパーソナリティはここ数年ですいぶん変化した。本講では、そうした現代の思春期のあり方とその病理状態について考え、そこに精神的にアプローチする際に生じる諸問題を提示する。さらに、最近の臨床経験をもとに、現代の思春期に特有の転移状況のあり方について吟味したい。	Margot Waddell(1998):'Inside lives psychoanalysis and the growth of the personality.'Karnac.London. Meltzer&Harris(2011):'Adolescence Talks and papers by Donald Meltzer and Martha Harris.'Karnac.London.
7月15日(日)	浅田 護 浅田病院院長	<ul style="list-style-type: none"> 10:00～12:20 講義『転移と逆転移』特性について 13:20～14:40 講義『転移と逆転移』 14:40～15:40 症例検討 	転移逆転移は精神分析臨床における治療関係の理解、技法、治療作用を含め本質をなす最も基本的な臨床概念である。ドラの症例にはじまるといわれるフロイトにおける転移の理解の、その後の、特に無意識的幻想を臨床理解の基盤におくクライン派における転移逆転移概念の発展を辿りたい。	クライン派の臨床 Segal.H.松木邦裕訳、岩崎学術出版社。1988
8月26日(日)	藤山 直樹 上智大学教授、個人開業	<ul style="list-style-type: none"> 10:00～12:20 講義『ウニコット入門』 13:20～14:40 講義『治療経過の理解』 14:40～15:40 症例検討 	ウニコットとクラインの理論の共通点と対立点を浮き彫りにしながら、彼の発達論、病理論、治療論を概括する。	ウニコット「小児医学から精神分析へ」『情緒発達の精神分析理論』「遊ぶことと現実」すべて岩崎学術出版社
9月16日(日)	衣笠 隆幸 日本精神分析協会前会長、 広島精神分析医療クリニック 院長	<ul style="list-style-type: none"> 10:00～12:20 講義『病理的組織化の展開』 13:20～14:40 講義『嗜癪と倒錯』 14:40～15:40 症例検討 	Steiner, J. の提唱した「病理的組織化」の形成過程の歴史と、その対象となる患者群の病理の特徴を開説したい。その中で、倒錯と嗜癪についての病理的意義について、解説する。	心の退避 Steiner, J. 衣笠 監訳、岩崎学術出版社、1997 見ることとみられること 浅田 義敬訳、岩崎学術出版社、2013
10月14日(日)	皆川 英明 広島市精神保健福祉センター 所長	<ul style="list-style-type: none"> 10:00～12:20 講義『投影性同一視』 13:20～14:40 講義『アセスメント』 14:40～15:40 症例検討 	クライン派の鍵概念の一つである投影性同一視projective identificationはKleinによって1946年に提唱されたが、現在ではいくつかの異なる機構を含む包括的用語umbrella term (Spillius, Sodore)として認識されるようになっていく。これはしばしば混乱を招く用語だが、その理由の一つには、同じ用語が全く異なる事態に対して用いられていることが挙げられる。午前はこれについて解説し、午後は衣笠の「重ね着症候群」の概念を中心に据え、アセスメントの問題について考える。	1)カターリーナ・ブロンスタイン編「現代クライン派入門」(岩崎学術出版)の第8章「投影同一化」、2)ハーグリーブス編「心的変化を求めて」(創元社)の第3章「誰が誰なのか?」、3)福本修編「精神分析から見た成人の自閉スペクトラム」(誠信書房)の第7章「重ね着症候群(衣笠)について」
11月4日(日)	福本 修 恵泉女学院大学教授、 代官山心理・分析オフィス	<ul style="list-style-type: none"> 10:00～12:20 講義『ピオンの臨床への貢献』「注意と解釈」 13:20～14:40 講義『ピオンのセミナー』「スーパーヴィジョン記録から」 14:40～15:40 症例検討 	ピオンが1950年代に提起した諸概念には精神病理学的な有用性はあるが、そこには限界もある。一定のパターンに嵌らないものに接近しようとしたのが、1960年代後半から晩年の仕事と思われる。全集刊行後も刊行が続いている彼の臨床セミナーを参照しながら考えてみたい。	ピオン「注意と解釈」 Bion in Buenos Aires: Seminars, Case Presentation and Supervision Bion in Brazil: Supervisions and Commentaries
12月16日(日)	阿比野 宏 ロンドン医療センター精神科部長、 タウエストッククリニック講師	特別講演	このたび広島でご講演いただけることになりました。現在、英国精神分析協会 精神分析家、英国王立医師会、英国王立精神科医師会精神科精神療法専門医、タウエストッククリニック講師、ロンドン医療センター精神科部長としてご活躍されております。精神分析の本場英国の第一線で活躍されている先生のご講演ならびにケースの理解について触れることのできるまたない機会になっております。	
平成31年(2019) 1月20日(日)	木部 則雄 白百合女子大学教授	<ul style="list-style-type: none"> 10:00～12:20 講義『子供の精神分析』 13:20～14:40 講義『治療の展開と目標』 14:40～15:40 症例検討 	こどもの精神分析に果たしたクラインの功績は計り知れないものがあり、現在でもその価値が失われていない。まず、クラインの知見をまとめて再認識するために、その技法と理論を総括する。次に、現代のこどもの精神分析において、重要となってきた発達障害の精神分析に関して、ポストクライニアンとの理論と実践を紹介する。	『児童の精神分析』クライン著作集2(衣笠隆幸訳)、『こどもの精神分析』木部則雄、 『こどもの精神分析II』木部則雄
2月17日(日)	権 成鉉 クリニックソフィア院長	<ul style="list-style-type: none"> 10:00～12:20 講義『力動的臨床精神医学』 13:20～14:40 講義『うつ病の病理』 14:40～15:40 症例検討 	精神科医療と力動臨床精神医学について。精神分析の基本概念である「転移-逆転移」「抵抗と防衛」「無意識」、そして集団力動(ピオン)は精神科医療をよりよく実践するために極めて有用です。このことを再確認したいと思います。この視点から「うつ病の病理」では一般診療で、これらの基本概念がどのようにつながるかを提示したいと思います。	衣笠隆幸(2015) 精神分析と精神科臨床。精神分析的臨床精神医学 7:1-19. キャバード 精神力動的臨床精神医学

* 全10回中8回以上の出席で修了証を発行することとなります。また特別講演がある場合、随時ご案内いたしますが、これは補足セミナーとして考慮される予定です。

* 講師および講演内容は、一部変更となる場合がありますので、予めご了承下さい。